

## 令和4年度北海道科学技術賞受賞者功績概要

氏名	齊藤 誠一（69歳）		
	※ 年齢は令和4年4月1日現在		
所属・職名	北海道大学北極域研究センター 研究推進支援教授	現住所	函館市
<p>&lt;功績名&gt;</p> <p>「衛星リモートセンシングを利用したスマート水産業を実現するシステムの開発及び普及」</p> <p>&lt;功績の内容&gt;</p> <p>水産業は北海道の基幹産業であるが、資源量の減少や赤潮被害、燃料費の高騰、漁業従事者の高齢化など産業維持の根幹に係る問題が年々深刻になっており、この状況では漁業の効率化が望まれる。</p> <p>氏は、この30年間で飛躍的に技術開発が進んだ人工衛星を用い、衛星が測る広域海洋環境データを水産学研究にいち早く取り入れ、イカ、サンマ、ホタテを含む北海道の主要水産物の漁場・好適環境推定に取り組んできた衛星水産学分野の世界的パイオニアである。関連分野で200編を超える論文を出版しているが、研究教育の過程で得られた水産学、海洋環境学の知見を効率的漁業に活かすべく、函館市内にベンチャー会社を設立し、最適な漁場を推定する「トレダス」システムや、最適なサケ幼魚放流時期を推定するシステム、養殖ホタテの最適出荷時期を推定するシステムの開発・普及に努めてきた。これまで漁師の経験や勘に頼っていた従来の漁業形態から、デジタルデータの客観分析に基づくスマート水産業への転換に大きく貢献した。</p> <p>&lt;経歴&gt;</p> <p>（略歴）</p> <p>昭和50年 3月 北海道大学水産学部卒業</p> <p>昭和53年 3月 北海道大学大学院水産学研究科漁業学専攻修士課程修了</p> <p>昭和56年 3月 北海道大学大学院水産科学研究科漁業学専攻 （博士課程単位取得の上退学）</p> <p>昭和56年 4月 日本IBM株式会社客員研究員</p> <p>昭和59年 3月 学位取得（北海道大学水産学博士）</p> <p>昭和59年 8月 財団法人日本気象協会研究所研究員</p> <p>平成5年 2月 北海道大学水産学部助教授</p> <p>平成12年 4月 北海道大学水産学部教授</p> <p>平成27年 4月 北海道大学北極域研究センター長</p> <p>平成31年 4月 NPO法人Digital北海道研究会理事長</p> <p>令和2年 4月 北海道大学北極域研究センター 研究推進支援教授 ～現在</p> <p>（受賞歴）</p> <p>平成26年 3月 宇田賞 水産海洋学会</p> <p>平成28年11月 ウースター賞 北太平洋海洋科学機構</p> <p>平成28年11月 優秀科学賞 国際海洋リモートセンシング会議</p> <p>令和4年 9月 宇田賞 日本海洋学会</p>			